

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



充実した樹体をつくりましょう

茶指導販売課 菊川 響



暑さが続く9月は、春から夏までの摘採で低下した樹勢を回復しつつ、翌年一番茶の摘採に向けて準備を行う時期になります。茶園の状況を確認し、適期に管理を行い充実した樹体をつくりましょう。

秋肥（2回目）の施肥

秋肥は、これまでの摘採で消耗した樹勢を回復させるだけでなく、充実した樹体をつくり翌年一番茶の収量・品質を向上させる効果があります。適期に施肥を行い、茶樹に効率よく肥料成分を吸収させましょう。

施肥時期…9月中～下旬頃（1回目の施肥から約1か月後が目安）

使用する肥料…有機質肥料・配合肥料など

施肥後は施肥効果を高めるために、土壌とよく混ぜ合わせましょう。

※速効性肥料や窒素成分の多い肥料などを使うと、冬期に再萌芽することがあるため注意が必要です。

病虫害の防除

秋期に生育するのは翌年一番茶の母体となる枝葉であり、この時期に受けた被害は一番茶の収量・品質に影響するため、茶園を観察し適期防除を行いましょう。

9月上旬

チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、カンザワハダニなどの防除時期です。高温・乾燥下では発生数が増加することがあります。近年、9月の管内平均気温は上昇傾向にありますので、発生状況に合わせて防除を行ってください。

※早いところでは今月の中～下旬頃から秋冬番茶の摘採が始まります。各地区の防除規制や防除情報などに従い、安心・安全な摘採を心掛けましょう。